

わたしたちのいしずえ

青山学院の青山学院らしさ



青山学院の変わるものと変えてはならないもの——
世の中の変化にしなやかに応じつつも、
そのいしずえと目指すところ、
すなわち青山学院の^{ミッション}使命は
いつの時代も変わることがありません。

MISSION

建学の精神

青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰にもとづいて、行われる。

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World
(聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

AOYAMA VISION

すべての人と社会のために未来を拓く
サーバント・リーダーを育成する総合学園

わたしたちのいしずえ

青山学院の青山学院らしさ



ジョン・ウェスレー(1703-91)

メソジスト教会の創立者ジョン・ウェスレーの教育観の根底には、信仰と理性の調和の思想がみられる。

青山学院は、米国メソジスト監督教会から派遣された宣教師たちの創設した三つの学校「女子小学校」(1874年、ドーラ・E・スクーンメーカー宣教師)、「耕教学舎」(1878年、ジュリアス・ソーパー宣教師)、「美會神学校」(1879年、ロバート・S・マクレイ宣教師)を源流とする総合学園です。

時代とともに進化発展を遂げゆく青山学院ですが、学院の特色であり使命であるキリスト教信仰にもとづく精神は建学以来まったく変わることなく、これまでも、そしてこれからも一貫して学院を立て続ける礎^{いしずえ}です。

青山学院は、あらゆるプログラムを通じて知的成長を促し、高い寛容性・他者理解・個性尊重のもとに多様な世界と積極的に向き合い、愛と希望をもってすべての人と社会に仕えていくグローバル社会のリーダーの育成を目指しています。そのため各設置学校は、学院の伝統と理念を継承し発展させる場として年齢に応じた環境の整備と個々の豊かな人格の形成に励み、つねに知的フロンティアを前進させ、愛と自由と希望に満ちた世界の構築に向けた幅広い教育・研究の機会を創出していきます。

こうした青山学院の使命を実現するために明文化された「青山学院教育方針」は、学院の教育・研究に関わるすべての者が共有する指針であり、ここから離れては青山学院の教育・研究が成り立ち得ない原点として学院創立90周年の際に制定されました。学院の構成員はつねに自分の課題を学院の教育方針に沿って考え、表面的理解や字句の解釈にとどまることなく、日々祈りつつ、力を尽くし、思いを尽くして、これを実現することを目指します。

では改めて「青山学院教育方針」を確認しておきましょう。

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

キリスト教信仰にもとづく教育をめざし

これは青山学院の存立基盤、教育の拠りどころ、最大の目的を述べたもので、学校法人青山学院寄附行為第4条「青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰に基づいて、行わなければならない」との条項と軌を一にするものです。青山学院の伝統は、その創立時より一貫してキリスト教信仰にもとづく教育を行うことを土台にしてきました。ここには、いかなる歴史的社会的局面に立たされても、神の真理とキリスト教信仰の価値観に立って使命を達成しようとする決意が示されています。つねにキリスト教信仰が青山学院の立脚ポイントであり、戻るべき原点、学院の普遍的・核心的価値なのです。激変する時代、不確実な社会の只中であって、揺るがぬ基軸を持ち続けることが青山学院を青山学院たらしめます。私たちはこの^{トラディション}伝統を正しく継承し、建学の精神に土台を据えながら新しい時代の教育と学問研究を担っていきます。

神の前に真実に生き

キリスト教信仰により私たちは神の前に真実であること、すなわち神の前に自己を相対化し、繰り返し自らを省み、謙虚さをもって地上での責任を果たすことができます。この信仰に依って立つ私たちは、神と人を欺かず、見えるものだけではなく見えないものに忠実であり、与えられた場所で誠実に生きることを可能にします。そしてなによりもイエス・キリストの真実の教えとその生と死と復活に日々目を向けて歩むことによって、自己中心の思いから解放され、人の目を恐れず、愛と個性豊かな人格を育んでいくようになります。そうした環境で育まれる資質について、第二代院長 本多庸一は、「^{ねがわ}希くは神の恵により我輩の学校より所謂Manを出さしめよ。Manの資質多くあるべしと^{いえ}雖どもSincerity(至誠)、Simplicity(質直)*最大切なるべし」と述べました。これらの資質は学院生活を通じて、いつの間にか醸し出されていく無形の財産であり、今なお世に放ち続ける青山学院の豊かな香り、学院のカラー、そして^{トラディション}伝統に裏づけられた品性となっています。

真理を謙虚に追求し

真実に生きる人はまた、真理を謙虚に追求します。学問や学習を通じて合理的にまた科学的に追究する真理もありますが、青山学院では有限なる人知を超えた信仰の世界にかかる真理、すなわちイエス・キリストの愛の真理を共に追求していきます。キリスト教信仰にもとづく教育は、イエス・キリストとの出会いと神の愛を示す教育にほかなりません。青山学院は神の愛という絶対的真理に照らされることによって、神の前にへりくだり、つねに互いを尊重し、多様な人々やその考え方と真摯に向き合い、ともに普遍的真理を追い求めることを目指しています。聖書は「真理はあなたがたを自由にする」(ヨハネ8:32)と教えています。さらに愛の真理は、他者に開かれたものでなければなりません。学院の礎を築いた宣教師たちがそうであったように、いまも学院の一人ひとり^{ミッシヨナリー}は、愛と自由と知の宣教師として、グローバル世界と次世代への架け橋として遣わされていくのです。

愛と奉仕の精神をもって

キリスト教信仰にもとづく教育は、神と人ともに仕える人間、愛と奉仕に生きる人間の形成を目指します。イエス・キリストによって示された崇高かつ実践的な愛は、すべての人を大切なかけがえのない人格として受け容れるもので、それは世界へと波及します。それはまた、ありのままの自己と真摯に向き合うことから始まります。イエス・キリストは、『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい』(マタイ22:37~39)と言われました。神と向き合い、隣人と向き合うとき、それはおのずと自己の存在やあり方を根源的に問い直すことになります。自己を大切にすることは、自己中心になることではありません。また自己肯定感を高めるだけでもありません。真に自己を受容し大切にすることを学び、悔い改めの人生を求めるならば、それは他者をいたわり、理解し、尊重することへと自己を開いていくことでしょう。

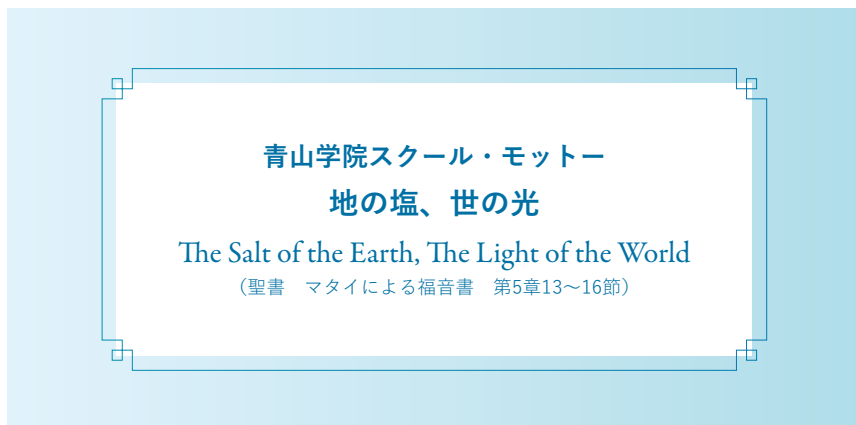
すべての人と社会に対する

青山学院での愛し、愛された経験は、隣人への愛と奉仕として開花し、それによってサステナブルな時代と世界をつくり出すことに貢献します。つまり真の隣人愛は社会的連帯を生み出し、その愛は、身近な者に責任を持つだけでなく、直接に接していない人々、多様な背景の人々、さらに地球規模・宇宙規模の人類と社会と環境にまで及びます。そのためには幅広い知識の習得と、愛と奉仕に向けた経験や訓練、そして進んで他者を配慮することのできる想像力と感性豊かな人格を形成することが必要です。さらに、学院の園児・児童・生徒・学生・院生・教職員はそれぞれが「大切な一人」であり、その尊厳は堅く守られなければなりません。青山学院は、すぐ近くにいる隣人にも、世界の「すべての人と社会のため」にも眼差しを向けつつ、日々グローバルな学びと研究を通して各々の成長を図ります。

責任を進んで果たす人間の形成

青山学院で学び、研究し、教え、働き、関わるすべての人々は、あらゆる課題に当事者意識をもって臨みます。投げ出したり、他人に責任を転嫁したりするのではなく、あるいはその場しのぎの偽り、ごまかし、自己保身によるのではなく、神の前に立つ自由でかけがえのない人格を有する者として、すべての人と社会に責任的に関わり、置かれたあらゆる場で率先して自らを差し出します。学院のすべての学術活動、教育プログラム、アート・スポーツ活動、社会貢献、そして世界のパートナーとの関係もまた、すべて責任的な取り組みにフォーカスが当てられ、新しい時代のコミュニティの形成、コミュニケーションの創出を目指していきます。

スクール・モットー「地の塩、世の光」は学院創立125周年の際に制定されました。学院の建学の精神と教育方針を一言で表している聖書の言葉です。



「地の塩、世の光」

「地の塩」と「世の光」は、イエス・キリストが語った「教え」というより「宣言」です。青山学院は、あなたがたは塩や光のようにかけがえのない大切な存在だとキリストの宣言のもとに建学されています。「塩」は味をつけ、腐敗を防止し、清める役割を果たします。素材の味(個性)を引き立たせます。目立たぬ仕方での人のため社会のために、意味を与え、腐敗を防ぎ、汚れを浄化する働きを担います。「光」もまた、誘導灯、灯台の灯のように、辺りを照らし、道を指し示し、人の心に明るさと温かさを与えます。これは自らを華やかに引き立たせるのとは違う光です。時代を照らし、人々の価値を引き立たせ、希望の光として励ましと勇気と力を周囲に発散する光です。宝石は光がなければ輝きません。ろうソクの炎は身を削りながら辺りを照らし、互いの顔を見えるようにします。青山学院に関わるすべての人たちはすでに「地の塩、世の光」であるとの宣言のもとで歩みを進める教育研究共同体の構成員です。

青山学院は創立140周年の際にAOYAMA VISION 2014-2024として「サーバント・リーダーの育成」を掲げました。創立150周年を迎えて、改めてこれを建学の精神を具現化する柱として提示します。

AOYAMA VISION

すべての人と社会のために未来を拓く サーバント・リーダーを育成する総合学園

青山学院が育むサーバント・リーダーは、自由で自立した存在として、
他者に仕えるとともに、互いの価値を見出し、
それを他の価値とつなぐことによって新しい時代を創造します。

サーバント・リーダーの育成

青山学院の教育方針やスクール・モットーを別の言葉で言い換えたのが「サーバント・リーダーシップ」です。イエス・キリストは、その教えと生涯において徹底してサーバント・リーダーであり続けました。とくに最後の晩餐の席で主人イエスがかがみこんで弟子たちの足を洗う姿(ヨハネ13：1-20)は、サーバント・リーダーの具体的なあり方を示すものです。青山学院は、そのイエス・キリストに倣ったサーバント・リーダーの育成を目指します。

サーバント・リーダーは、まずサーバント(仕え人)でなければなりません。喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣き(ローマ12：15)、互いに愛し合うこと(ヨハネ13：34-35)を身の周りから実現していきます。他者の悲しみや苦悩に寄り添うためには、自らも自由で自立した存在であることを必要とします。サーバント・リーダーは、仕えることを通して積極的に他者の価値を見出し、互いの価値をつないでいく働きをします。自分が感謝されたり称賛されたりすることを目的としません。時代の潮流やトレンドによって変わりはくものでもありません。必要な時に必要なところにいて必要な奉仕を

し続けるサーバント・リーダーこそが人と社会の価値を具体的に想像し、新しい時代を創造してゆくことでしょう。わたしたちはどのような場面でもサーバント・リーダーとなることができるのです。

青山学院の育成するサーバント・リーダーは、

- 豊かな学びに裏付けられた知性と品格(Knowledge & Wisdom)
- 他者を敬い違いを受け入れるところ(Mind & Heart)
- すべての人と社会に仕える勇気と行動(Perspective & Action)
- そして、神の恵みによる純真と誠実(Sincerity & Simplicity)

を兼ね備えた人です。単に優しさをもって仕えるだけではなく、大胆に時代を導き、支援し、後押しし、ビジョンと洞察力をもって先駆的に社会を形づくろうとする人でもあります。人に仕える意識の中から生まれる心づかいや振る舞いは、おのずと周囲の人を和ませ、人間関係や社会をスムーズにさせることでしょう。

青山学院は、歴代の宣教師をはじめ多くのサーバント・リーダーのモデルと出会ってきました。これからもサーバントであり、かつリーダーとしての資質を兼ね備えた人間を育成し、あらゆる分野領域へと送り出します。青山学院自体もまた、不安定な社会の只中であって教育・研究・信仰面での優れたサーバント・リーダーシップを発揮していかなければなりません。

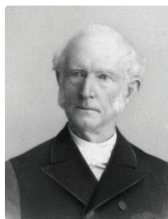
青山学院は、神の前に立つ人間形成という普遍的拠りどころに立脚しつつ、卓越した教育展開、時代をリードする学問研究、そして文化創造的な諸活動を、深め高めていくことを目指します。グローバル社会において大胆に人と社会に貢献し、多様な人々との出会いを通して神の創造の豊かさを感じ、平和を実現していきます。けっして知的成長に留まることなく、高い倫理観をもったコミュニティ・リーダーとして、成熟した世界の創造に参加し、世界市民としての義務と責任を果たします。

創立150周年に際し、青山学院は改めて、愛と奉仕と自由と真理を探究するという信仰にもとづく^{トラディション}伝統を堅持し、時代を見極め、リードしていく教育研究共同体であり続けることをここに確認します。



ドーラ・E・スクーンメーカー
(1851-1934)

23歳で来日し、わずか3週間で「女子小学校」を開設。青山学院の女子教育の礎を据えた。米国メソジスト監督教会から派遣された最初の女性宣教師。



ロバート・S・マクレイ
(1824-1907)

20数年にわたる中国福州での宣教活動ののち、横浜山手で「美會神学校」を創設した。青山学院初代院長。



ジュリアス・ソーバー
(1845-1937)

1873年に来日し、「耕教学舎」創設に携わった。津田仙はじめ400人以上に洗礼を授け、多くのキリスト教書物の和訳を手がけた。



津田 仙
(1837-1908)

農学者。スクーンメーカーを助けて女子小学校の創立に協力。1875年ジュリアス・ソーバーより洗礼を受ける。普連土学園などの設立にも尽力し、自らは学農社を創設。津田梅子の父。



本多庸一
(1849-1912)

東奥義塾塾長、青森県会議長、米国留学を経て、1890年東京英和学校校長、1894年より青山学院第二代院長。1907年からは日本メソジスト教会初代監督となる。



ジョン・F・ガウチャー
(1845-1922)

米国メソジスト監督教会の牧師。私財を投じてインド、中国、日本の宣教師らを支援した。青山の土地購入はガウチャーの支援による。

OUR FOUNDATIONS

School Identity of Aoyama Gakuin



John Wesley (1703-91)

Underlying John Wesley's view of education as the founder of the Methodist Church is found the idea of harmony between faith and reason.

Aoyama Gakuin is a comprehensive institution with its origins in three schools founded by missionaries sent by the Methodist Episcopal Church in the U.S.: "Girls' Elementary School" (1874, Dora E. Schoonmaker), "Kokyo Gakusha" (1878, Julius Soper), and "The Methodist Mission Seminary" (1879, Robert S. Maclay).

Aoyama Gakuin has evolved and developed with the times, but the spirit based on Christian faith, which is the distinctive feature and mission of the school, has not changed since its foundation and will remain unchanged.

Aoyama Gakuin aims to cultivate leaders of our global society who will serve all people and society with love and hope by promoting intellectual growth and by interacting with the diverse world with a high level of tolerance, understanding and respect for others' individuality. To meet these goals, each of the schools strive to create an age-appropriate environment and enrich the character of each student as a place to carry on and develop the traditions and ideals of the institution, while constantly advancing the intellectual frontier and creating a wide range of educational and research opportunities to build a world filled with love, freedom, and hope.

The "Educational Policy of Aoyama Gakuin," which was established to realize the mission of Aoyama Gakuin, is a guideline shared by all those involved in education and research and was established at the 90th anniversary as something Aoyama Gakuin cannot not exist without. The members of Aoyama Gakuin community consistently prioritize the Educational Policy through daily prayer, focus of its powers, and complete devotion.

Educational Policy of Aoyama Gakuin

Aoyama Gakuin has as its aim
education based upon the Christian faith
and as its purpose the building up of persons
who live in sincerity before God,
who seek for truth with humility,
and who actively take responsibility for all people
and for society in a spirit of love and service.

Aiming education based upon the Christian faith

This is the foundation of Aoyama Gakuin's existence, the basis of its education, and its greatest purpose, and is in line with Article 4 of the Aoyama Gakuin Articles of Endowment, which states that "Education at Aoyama Gakuin shall be forever based on the Christian faith." The tradition of Aoyama Gakuin has been consistently nurtured on the basis of education based on the Christian faith since its foundation. This has shown our determination to achieve our mission based on the truth of God and the values of the Christian faith, no matter what historical or social situation we find ourselves in. The Christian faith is the foundation on which Aoyama Gakuin stands, the starting point to which we must always return, and the universal core value

of the school. In the midst of rapidly changing times and society, maintaining an unshakable foundation is what makes Aoyama Gakuin. We will continue to carry on this tradition and to carry on education and academic research in the new era, while keeping the spirit of the founding of Aoyama Gakuin.

Living sincerity before God

The Christian faith enables us to be true before God. That is, to relativize ourselves before God, to reflect on ourselves repeatedly, and to fulfill our earthly responsibilities with humility. Standing by this faith enables us to live faithfully in our given place, not deceiving God and man, being faithful not only to what is seen but also to what is unseen. Above all, by keeping our eyes focused on the true teachings of Jesus Christ and His life, death, and resurrection, we are freed from self-centeredness, and we begin to develop a loving and unique character without fearing the eyes of others. Yoitsu Honda, the second chancellor, said, "Let the grace of God bring out a man from our institution, for there are many qualities in a man, but sincerity and simplicity are the most important." These qualities are intangible assets that are developed over time through school life at Aoyama Gakuin, and they are the character backed by the rich fragrance, color, and traditions of Aoyama Gakuin that continue to radiate into the world today.

Seeking for truth with humility

Those who live in truth also pursue truth humbly. While some truths are pursued rationally and scientifically through study and learning, Aoyama Gakuin pursues the truth of the world of faith that transcends finite human knowledge, the truth of Jesus Christ's love. An education

based on the Christian faith is nothing other than an encounter with Jesus Christ and an education that demonstrates the love of God. In the light of the absolute truth of God's love, Aoyama Gakuin is humble before God, always respecting each other, sincerely dealing with diverse people and their ideas, and pursuing universal truths together. The Bible teaches us, "The truth will set you free" (John 8:32). Furthermore, the truth of love must be open to others. Just as the missionaries who laid the foundation of our school did, each one of us will be sent as a missionary of love, freedom, and knowledge as a bridge to the global world and to the next generation.

With a spirit of love and service

Education based on the Christian faith aims to form people who serve God and people and people who live in love and service. The sublime and practical love shown by Jesus Christ, which accepts every person as a precious and irreplaceable being, spills over into the world. It also begins with a sincere confrontation with the self as it is. Jesus Christ said, "Love the Lord your God with all your heart, with all your soul, and with all your mind." This is the most important first commandment. The second is equally important. He said, "Love your neighbor as yourself" (Matthew 22:37-39). When we face God and face our neighbor, this naturally leads us to fundamentally reexamine our own existence and way of being. Valuing the self does not mean becoming self-centered. It is not just a matter of increasing one's self-esteem. If we learn to truly accept and value ourselves and seek a life of repentance, we will open ourselves up to caring for, understanding, and respecting others.

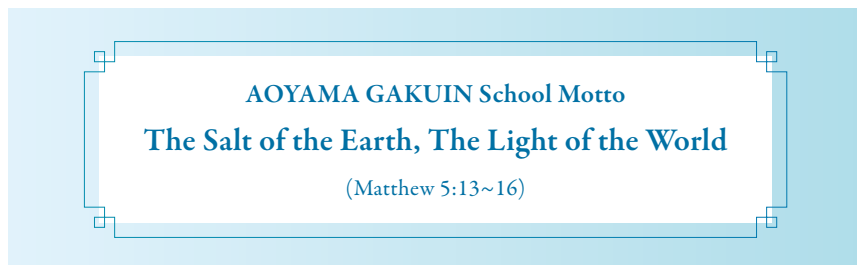
For all people and for society

The experience of loving and being loved at Aoyama Gakuin blooms into love and service to one's neighbors, thereby contributing to creating a sustainable age and world. In other words, true love of neighbor creates social solidarity, which is not only responsible for those closest to us, but also extends to those with whom we are not in direct contact, to people of diverse backgrounds, and to humanity, society, and the environment on a global and cosmic scale. This requires the acquisition of a wide range of knowledge, experience and training in love and service, and the formation of an imaginative and sensitive personality capable of caring for others willingly. Furthermore, all students, faculty, and staff are "one of a kind," and their dignity must be protected. Aoyama Gakuin is committed to the growth of each individual through daily global learning and research, with an eye to our immediate neighbors and to the "good of all people and societies" around the world.

Building up of persons who actively take responsibility

Everyone who studies, researches, teaches, works, and is involved with Aoyama Gakuin approaches every challenge with a sense of ownership. Rather than giving up or shifting responsibility to others, or through makeshift pretenses, deceptions, or self-preservation, they will responsibly engage with all people and society as people of free and irreplaceable character standing before God, taking the initiative in all situations in which they are placed. All of the school's academic activities, educational programs, arts and sports activities, social contributions, and relationships with partners around the world will also be focused on responsible

engagement, aiming to create a new era of community building and communication.



The school motto "Salt of the Earth, Light of the World" was established at the 125th anniversary of the institution. It is a biblical phrase that expresses the school's founding spirit and educational policy.

Salt of the Earth, Light of the World

"Salt of the earth" and "light of the world" are words of proclamation rather than a lesson from Jesus Christ. Aoyama Gakuin is founded on Christ's declaration that we are as precious and irreplaceable as salt and light. Salt adds flavor, prevents spoilage, and purifies. It enhances the taste (character) of ingredients. Salt gives meaning, prevents decay, and cleanses impurities for the sake of others and society in a discreet way. Light, like a guiding light or a lamp, illuminates the area, points the way, and gives brightness and warmth to the human heart. This is a different kind of light from that which it glamorizes itself. It is a light that illuminates the times, accentuates people's worth, and emanates encouragement, courage, and strength to those around it as a beacon

of hope. Jewelry cannot shine without light. The flame of a candle shines by sacrificing itself so that we can see each other's faces. Aoyama Gakuin is an educational and research community that moves forward under the declaration that all people associated with Aoyama Gakuin are already "salt of the earth and light of the world."

**Aoyama Gakuin is a comprehensive educational institution
cultivating servant-leaders to create a brighter future
for all people and for society.**

Servant leaders nurtured by Aoyama Gakuin are free and independent,
serving others and creating a new era by discovering

Aoyama Gakuin set forth "Cultivation of servant-leaders" as its 2014-24 goal on the occasion of its 140th anniversary. As Aoyama Gakuin celebrates its 150th anniversary, we reiterate this as a pillar that embodies the spirit of the school's founding.

Cultivating servant-leaders

Aoyama Gakuin's educational policy and school motto can be paraphrased in these words: "Servant Leadership." Jesus Christ remained a thorough servant leader in his teachings and in his life. In particular, at the Last Supper, Jesus bent down to wash the disciples' feet (John 13:1-20), which is a concrete example of a servant leader. Aoyama Gakuin aims to nurture servant leaders who follow the example of Jesus Christ.

A servant leader must first be a servant. We are to rejoice with those who rejoice, weep with those who weep (Romans 12:15), and love one another (John 13:34-35). To be present in the sorrows and anguish of others requires that we ourselves be free and independent. Servant-leaders work to actively find value in others and create bonds with each other through service. They do not seek to be appreciated or admired. It is not something that changes with the currents and trends of the times. Servant leaders who are there when and where they are needed and continue to provide the necessary service are the ones who will concretely envision the value of people and society and create a new era. We can be servant leaders in any given situation.

The Servant Leaders that Aoyama Gakuin cultivates are those who possess the following:

- [Intelligence and dignity backed by rich learning \(Knowledge & Wisdom\)](#)
- [Respect for others and acceptance of differences \(Mind & Heart\)](#)
- [Courage and action to serve all people and society \(Perspective & Action\)](#)
- [Sincerity & Simplicity by God's grace.](#)

They not only serve with kindness, but also boldly lead, support, and encourage others through the times, pioneering and shaping society with vision and insight. The care and behavior that emerge from a sense of service to others will naturally soothe those around them and facilitate human relationships and society.

Many servant leader role models, such as former missionaries, have served this institution. Aoyama Gakuin will continue to nurture people who are both servants and leaders, and send them out into all fields of endeavor. Aoyama Gakuin itself must also demonstrate excellent servant leadership in education, research, and faith in the midst of an unstable society.

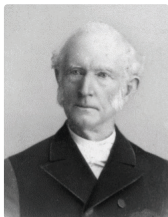
Aoyama Gakuin aims to deepen and enhance its outstanding education, leading academic research, and cultural and creative activities based on the universal foundation of human formation in the presence of God. We will boldly contribute to people and society in a global society, and through encounters with diverse people, we will experience the richness of God's creation and realize peace. As community leaders with high ethical standards, we will participate in the creation of a mature world and fulfill our duties and responsibilities as world citizens, without limiting ourselves to intellectual growth.

On the occasion of the 150th anniversary of Aoyama Gakuin's founding, we reaffirm that Aoyama Gakuin will continue to be a community of education and research, a community that discerns and leads the times, adhering to its faith-based traditions of love, service, freedom, and the search for truth.



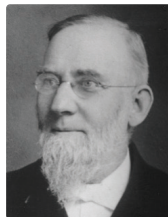
Dora E. Schoonmaker
(1851-1934)

She came to Japan at the age of 23 and established the "Girls' Elementary School" in just three weeks. She laid the foundation for women's education at Aoyama Gakuin. The first female missionary from the Methodist Episcopal Church.



Robert S. Maclay
(1824-1907)

After more than 20 years of missionary work in Fuzhou, China, he founded the Methodist Mission Seminary in Yamate, Yokohama. He became the first president of Aoyama Gakuin.



Julius Soper
(1845-1937)

He came to Japan in 1873 and was involved in the founding of the "Kokyo Gakusha Boys' School". He baptized more than 400 people, including Sen Tsuda, and translated many Christian books into Japanese.



Sen Tsuda
(1837-1908)

Agronomist. He assisted the Schoonmaker in founding Girls' Elementary School and was baptized by Julius Soper in 1875. He helped found Friend Mennonite School and other schools and founded Gakunosha himself. Father of Umeko Tsuda.



Yoitsu Honda
(1849-1912)

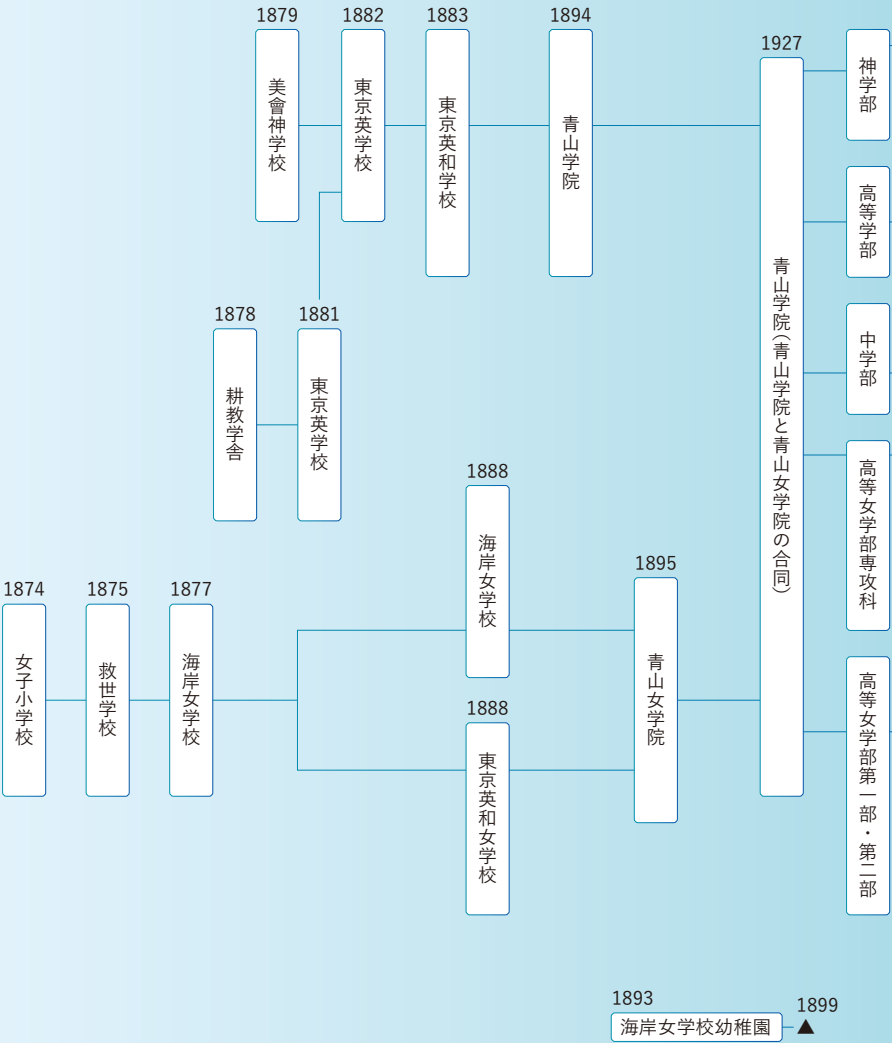
After studying in the U.S., he became principal of the Tokyo Eiwa School in 1890 and the second president of Aoyama Gakuin from 1894.



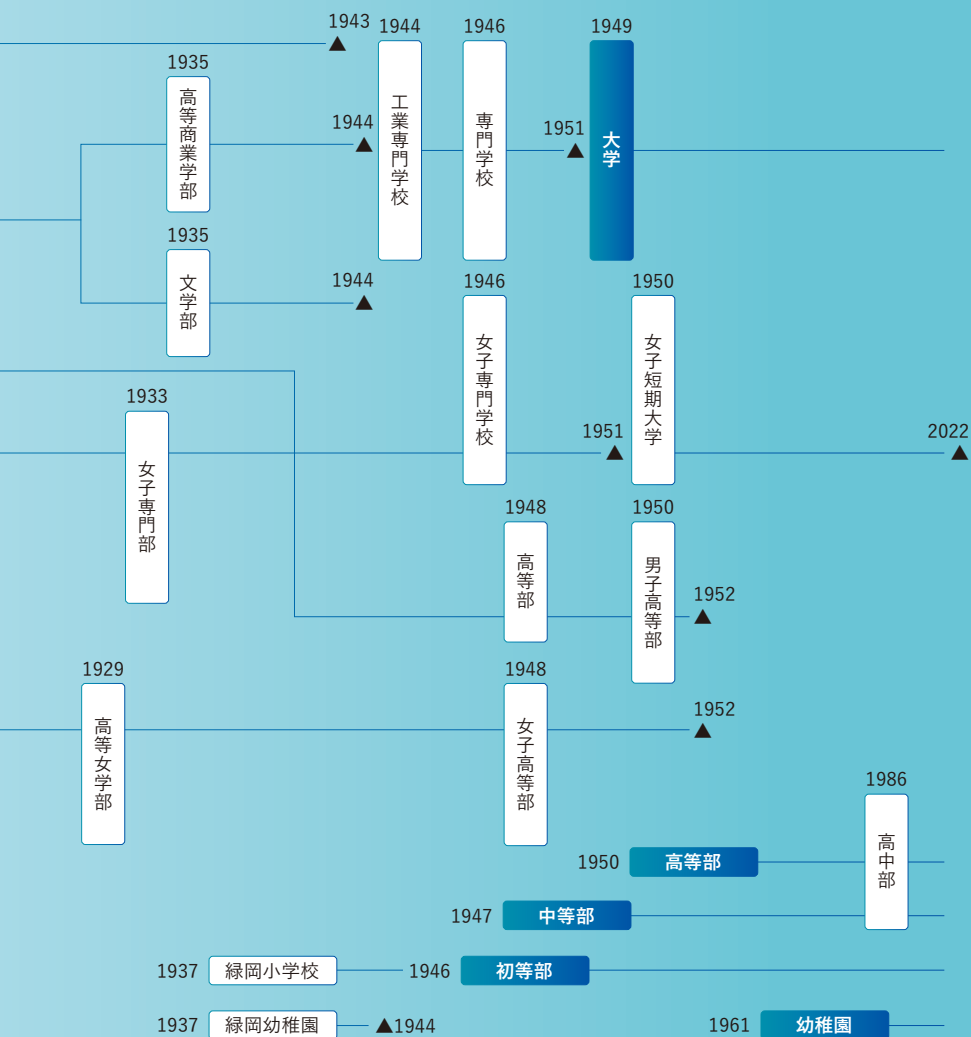
John F. Goucher
(1845-1922)

Pastor of the Methodist Episcopal Church in the United States. He supported missionaries in India, China, and Japan with his private fortune. Goucher supported the purchase of land in Aoyama.

青山学院 沿革図



▲：廃止・閉鎖または統合



わたしたちのいしずえ
青山学院の青山学院らしさ
(2024 年 11 月発行)

学校法人 青山学院

<問合せ先> 総合企画部
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-6384

学院公式ウェブサイト
<https://www.aoyamagakuin.jp/>

